



学校だより

かけ橋

パート III

横須賀市立汐入小学校 校長室

2014. 2. 7

No. 21

元気でやりぬく子  
すすんで学ぶ子  
思いやりのある子

## 踏切の渡り方

1月28日（火）朝、いつものように交通指導で信号に立っていると、地域の方から声をかけられました。

「いつもご苦労様。ところで、5丁目にある踏切の渡り方が危ないから、学校で注意してもらえないか。カンカン鳴っているのに、走って渡ろうとするので危ないんだ。大人でもやる人が多いから、子どもばかりは責められないんだけどな・・・。」

そんなような話をしてくださいました。

以前に、石を蹴っていて、踏切の線路の方まで入ってしまったという話を聞き、何人かの子どもを指導したという報告を受けました。その後は、踏切の話は、出ていませんでした。

その日の朝の打ち合わせで、先生方に話して、実際の様子はどうなのか、子どもたちから情報を聞き取ってもらいました。

すると、地域の方がおっしゃる通り、走って通りぬけたという子どもが何人か出てきました。中には、ふざけて遮断機を頭にのせたという子もいました。

さすが、汐入の子どもたちです。やったことを素直に認め、ちゃんと謝ることができました。担任が指導した後、とても大変なことなのだと感じて欲しくて、校長室でも指導しました。しっかり感じてくれたようです。このことは、自分の口で、お家の人に話すように伝えました。子どもから話がありましたか？

情報をくださった地域の方は、日頃から子どもたちの様子に気を配ってくださっていたのだと思います。ほんとうにありがとうございました。

## 横須賀環境フォーラム

2月1日（土）ベイサイドポケットで、開催されました。環境ポスターの表彰や横須賀 ECO 大賞の発表などがありました。

そこで、本校の3年生が、猿島に行った時の様子をクイズにして発表しました。当日は、インフルエンザ等で残念ながら参加できなかった子もいましたが、代役を立てて、何とか乗り切りました。

「猿島レンジャー」や「猿島行ったよ」の手遊び歌など、子どもらしいかわいらしさが出た発表でした。応援に来てくださった保護者のみなさま、ありがとうございました。

その後、「地球のステージ」というギターと歌と映像による地球の平和を考えるイベントがありました。「内容的に、子どもたちにはちょっと難しすぎたのでは・・・。」と思いました。しかし、最後までちゃんと聞いて、「楽しかった。」という感想を持った子が、何人かいたので、とても頼もしく思いました。



# すばなし

毎年、ほの会の方々に学校にいらしていただき、読み聞かせの会をやっています。この時期には、「ほの会ロング」という名称で、45分間の1単位時間を使い、行っています。低学年、中学年、高学年とそれぞれに合った内容で行ってくださいます。

2月4日の2校時に図書室に行ってみると、ちょうど中学年のすばなしをやっていました。チベット民話の「かしこい大臣」という話です。

絵本の読み聞かせは、絵本を見せながら読みます。もちろん子どもたちの様子や表情を見ながら読みますが、どうしても、絵本の方を見ている時間が長くなります。

しかし、すばなしでは、ずっと子どもたちの顔を見ながら話しかけるのです。まるで、「にほんむかしばなし」の市原悦子さんが目の前で話してくれているようです。

話し手は、声の様子を変えるだけでなく、身振り手振りや顔の表情なども使いながら、物語の世界を表現します。

また、時々出てくる難しい言葉をすかさず、子どもでも分かりやすい言葉で言い換えてくれます。例えば、「穀物」は「米や麦のことですよ。」とか、「嫁がせる」は「結婚させることね。」のように言ってくれました。そのため、子どもが場面を想像できて、飽きずに話を聞くことができていたのだと思います。

子どもたちはもちろん、大人の私もすっかり「かしこい大臣」の世界に入り込んでしまいました。

3校時に図書室に行くと、今度は、1・2年生に向けて紙芝居をやっていました。「みずってふしぎ」という題名で、水が温度によって、氷や水蒸気など様々に変化する様子を実際の写真で見せる紙芝居です。そこでは、表情豊かな読み方だけでなく、子どもたちの反応に興味を引かれました。



勢の子が声をあげていました。

紙芝居を見ている子どもたちの反応を見ていると、今の1・2年生がどんな言語を習得しているのか、よく分かります。日常生活の様々な経験の中で、語彙を増やしてあげる取り組みが大切だと感じました。ぜひ、ご家庭でもお取り組みをお願いします。



海や雪の写真は、すぐに、「あっ、海だ」とか「雪だ、雪だ。」というように、その言葉を言っていました。しかし、葉っぱに霜がついている写真は、しばらく黙ってしまいました。一人の子が、やっと小さな声で、自信なさそうに、「霜？」と言っていました。

「霜柱」の写真を見て、ほとんどの子が「つらら！」と叫びました。先生は、生活の場面と結びつけて、「霜柱」という言葉を教えてくださいました。汐入の子は、霜柱を踏む経験がないのかな？と思いました。

その後、「つらら」の写真が出たときは、「これがつららだ。」「ハリセンボンみたい。」大